

■橋小夢 挿絵画家。民話、伝説をモチーフに女性の魔性を表現、たびたび発禁処分をうけ、”幻の画家”とよばれた。

たちばなさゆめ

大本教・・・1892＝ 秋田市西根小屋町九番地で、漢学者で{秋田魁新報}創設時の発行人として活躍した加藤則幹の長男に生まれる。母はキエ。本名は加藤熙。

日清戦争始・1894＝ 2歳：弟醇が誕生。
_先天性心臓弁膜症だったため、好きな本を読んだり、絵を描いたりしてれば良いといわれて育ち、病とは生付き合いあうことになる。

子規句歌革新1898＝ 6歳：妹の出産時に母が死去(直後に妹も死去)。弟の醇とともに、実姉つなが養女に入っていた仙北郡六郷町の諏訪神社の神主宅に預けられ、

ビアノ国産化・1900＝ 8歳：父はナツと再婚し、

田中正造直訴1901＝ 9歳：

教科書疑獄・1902＝10歳：弟実が誕生。実家に帰る。

日露戦争終・1905＝13歳：

父の影響を色濃く受け、作家が画家かとの進路を迷っていたが、

アヲヲ創刊・1908＝16歳：旧制中学を卒業後、上京。麹町(英国大使館裏)に住む。白馬会研究所にて洋画を学び、

韓国併合・・・1910＝18歳：

大逆事件判決1911＝19歳：川端画学校にて日本画を学ぶうち(この頃の花や鳥の写生が多数現存)、_画家を志す事を決意。

明治天皇没・1912＝20歳：画学校出版の冊子{天真}に和歌や小説を寄稿後、

21ヶ条要求・1915＝23歳：

*美術雑誌{多都美}に日本画「置炬燵」掲載、{淑女画報}のカットが出版物掲載の最初となる。

民本主義・・・1916＝24歳：某雑誌で_日本三大怪談「牡丹燈籠」の挿絵連作を発表。{女学世界}に、橋朝夢名で、伝説に取材した多くの読み物を書き、挿絵も添える。{淑女画報}にも度々コマ絵を掲載。

ロシア革命・1917＝25歳：{新脚本叢書}の装幀を手掛け、岡本綺堂と親交を持つようになって「半七捕物帳」「綺堂脚本十種」を装幀。歌舞伎俳優中村吉右衛門の個人雑誌{揚幕}に挿絵を描くなど、芝居関係者との交流が始まる。

本格政党内閣1918＝26歳：

べ姉仁条約・1919＝27歳：友人で詩人の山内久太郎の尽力で、作品の愛好家による支援の会が発足し、

原歌首相暗殺1921＝29歳：

水平社結成・1922＝30歳：

久太郎の小説集「銀の芽」装幀。_秋田県湯沢で初の画会が開催され、また、県内旧家に多くの作品が残る。

関東大震災・1923＝31歳：

*代表作「花魁」。「さゆめ選画集」を發行、第1輯で名画「嫉妬」「刺青」が誕生、{大阪毎日}で現代まれにみる特色をもつ幻の作者の評。伝説物語画集の刊行を計画するも、大震災に被災、作品の多くが焼失して挫折。翌年にかけて、{報知新聞}に矢田挿雲連載の「澤村田之助」の挿絵も担当。

護憲三派圧勝1924＝32歳：

治安維持法・1925＝33歳：

円本時代始・1926＝34歳：

病床に伏す。盛岡の呉服大物絹糸卸問屋赤沢多兵衛の妹トキヲと結婚。以後、妻に生計を支えられ、

長女が誕生。

*矢田挿雲が{大衆文芸}に執筆した「江戸から東京へ」続編でも挿絵を担当。民俗学者藤沢衛彦とも親交、彼の主宰する雑誌{伝説}に挿絵、

金融恐慌・・・1927＝35歳：

共産党事件・1928＝36歳：

次女が誕生。この頃、小夢の絵に矢田挿雲が解説文をつける新画集刊行計画に取り組みが、出版社が原画を紛失して中止となるが、

{現代大衆文学全集}第10巻「澤村田之助」の挿絵を描く。_2回目の画会を開催、鍋島直映侯が作品を買い上げた縁で、侯に絵を教えはじめる。

世界恐慌・・・1929＝37歳：

海軍軍縮条約1930＝38歳：

満州事変・・・1931＝39歳：

五一五事件・1932＝40歳：

長男が誕生。秋田に襖絵「青松之図」。_ {現代大衆文学全集}第36巻「江戸から東京へ」では挿絵全て担当。

*挿絵画家書下ろしによる{日本挿絵画選集}で「高野聖」が評判。藤沢衛彦主宰の{猟奇画報}に「河童」掲載、

次男が誕生。この頃、{文芸倶楽部}はじめ数誌に挿絵を掲載。

藤沢衛彦著「日本伝説研究」に挿絵。三省堂で版画作品個人展覧会(版画選)を開催、1回目として「河童」を展覧させた「水魔」を発表、自らのアトリエを{夜華異相画房}と名付け、ここから自費出版する計画だったが、内務省より頒布禁止。

国際連盟脱退1933＝41歳：

帝人疑獄事件1934＝42歳：

芥川直木賞始1935＝43歳：

三省堂で_{第1回優奇世絵展}。版画選2回目で{夜華異相画房}から「唐人お吉」を出版、200部を売尽す。

銀座伊東屋で第2回{優奇世絵展}。「お蝶夫人」。*悲劇の名優を結晶した木版画「澤村田之助」、20年ぶりに新たな魅力を持つ「牡丹燈籠画譜」凸版画たとう入り9枚1組を発売。{朝日新聞}ほか諸紙で絶賛される。

木版画「やよいひばり」「中村もしほ」「葦原邦子」「オリエ津坂」「小夜福子」「水江タキ子」等を発売。銀座伊東屋で第3回{優奇世絵展}。*台湾台北で開催された{優奇世絵展}では、肉筆「あらし」が当局要請で展示撤回となったが、かえって反響呼んで連日盛況。軍国化とともに、特異な作風は受け入れられなくなり、

二二六事件・1936＝44歳：

日中戦争始・1937＝45歳：

健保+総動員1938＝46歳：

継母が死去。続いて、父も死去。銀座伊東屋で{第5回優奇世絵展}を開催。

この頃から、_芝居関係者との交流から、舞台衣裳や舞踊詞の仕事が多くなる。

芸能人の同人誌{芸人アパート}で、舞踊詩の作詞、衣裳の考案等活躍。三越ホールなどで活躍。若尾財閥夫人鶴子氏が絵を大変気に入って購入し、手紙や短歌での交流が始まる。

第二次大戦始1939＝47歳：

大政翼賛会・1940＝48歳：

日米開戦・・・1941＝49歳：

敗戦・・・1945＝53歳：

新憲法公布・1946＝54歳：

三大事件・・・1949＝57歳：

朝鮮戦争始・1950＝58歳：

独立回復・・・1951＝59歳：

メデー事件・1952＝60歳：

55年体制始・1955＝63歳：

国連加盟・・・1956＝64歳：

安保闘争・・・1960＝68歳：

若尾夫妻とともに、東北旅行。

「恵心僧都尊菩薩来迎図」はじめ、屏風や掛軸に仕立てるための構想図を多く制作。

両親を亡くした甥を引取る。物資不足で、制作も思うようにはならず。

平野止夫著「蓮如」装幀と挿絵、_愛好家たちも次々他界して、制作活動は終わるが、

妻とともに病を患う。

妻が胃の手術のため入院。

紫斑病を患う。

妻の病気が再発。自らは健康をとり戻し、献身的に妻の看病するが、

妻は死去。

この頃から、_子どもたちに、形見となる作品を残そうと屏風絵などを描きはじめ、色紙を描いて、次男の

会社の人や近所の結婚祝で披露。屏風絵「地獄太夫」は晩年の代表作となる。

タイタイ病始・1961＝69歳：

東京リビッヅ1964＝72歳：

自宅敷地内にアパートを建て、こまめに家事とアパート経営をこなす。

全共闘ビーク・1969＝77歳：

大阪万博・・・1970＝78歳：

危篤状態になるが奇蹟的に回復するが、思い出深い「唐人お吉」を展示している伊豆の寺を訪問旅行後、

長女らに見守られて、_没した。